

2018年度 入学試験問題

国 語

(帰国生入試)

[注意事項]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、QRコードシールをはりなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

【注意】国語の問題では、字数制限のあるものは、特別な指示がない限り句読点等も一字に数えます。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

アルバイトをしている人がインターネット上に投稿した「勤務先の店で仕事中にイタズラした写真」に関して、テレビやネットのニュースで大げさに報道することは、メディアの「過剰反応」で、そのニュースを見た者が自分も目立ちたいと思い、似たようなイタズラ写真を次々に投稿することも「過剰反応」であると筆者は述べている。

このような過剰反応は、メディアが過剰反応を示すことによつて生み出されるのである。

くだらないイタズラ投稿にさえメディアが大騒ぎするため、本人は変な自己効力感をもつし、目立ちたいという動機でバカなイタズラをする者が出てくる。

メディアとしても、バカなイタズラ投稿、極端な議論やクレームなどにいちいち反応せずに無視することが大切だ。無視されれば自己効力感が得られず、わざわざやる意味がなくなる。

テレビのニュースを見ても、やたら感情反応や極端な反応を煽るような報道スタイルをとるものが多くなってきたように思う。

かつてはニュースというのはもつと淡々と事実（何が事実なのかという根本的な議論はここでは棚上げしておく）が報道されるものだった。ア、近頃は、やたらと主観的なコメントがつけられるようになってきた。事実に対する解釈を提示することで、心を揺さぶることができる。こんな風に変な問題なのだとアピールすることができる。

その利点はあるものの、問題点もある。（中略）ここでは① ニュース報道さえもバラエティ番組化していることについて考えてみたい。

ニュースを報道する際に、芸人さえも聞き手として動員し、ボケ役として非常に利己的なコメントをしたり、ウケ狙いの極端な反応を示したりする。それは芸人のギャグなのであって、いちいち目くじら立てる必要はないかもしれない。笑いを誘う芸人の演技としてはそれで問題ないのだから。

だが、このような反応のもつモデリング効果は無視できない。モデリング効果とは、身近な人物や憧れの人物、好感をもつ人物などの言動を自然に真似るようになることを指す。

イ、芸人が非常に利己的なコメントをしたり、怒りをぶつけるような感情的な反応をしただけなら、

「あつ、そう思ってもいいんだ」

「僕もハラが立つんだけど、怒ってもいいんだ」

などと思う者が出てくる。

このような感情反応や極端な反応を煽るような報道スタイルが、視聴者から冷静な判断の習慣

を奪い、過剰反応を起こさせているとみることが出来る。

ネット社会になってだれもが発信できるようになった。かつては特定のマスメディア関係者や権力者、**ウ** 専門家しか発信できなかった。それが、ごくふつうの人々が自由に意見や情報を発信することができるようになった。

それによって価値観の多様化が進み、個人個人が独自の価値観で生きることができるようになったかというところ、ギャクにみんなが同じ方向を向いてしまうようになっていく。ネット上でみんながつながってしまうことが、あらゆる面での画一化を生んでいるように思われる。

情報は多様化しているはずなのだが、溢れる情報を前にして、何を信じたらいいかかわらないというところもあるだろう。だれもが自分の判断に自信がもてないために、

「みんなはどうなんだろう？」

「みんなはどう思うんだろう？」

と、「みんな」の動向を過剰に気にする。

流行現象がそうであるように、商品の売れ行きも価値観も一極集中の傾向がみられる。「売れる」という理由で、人々がその商品に群がる。

本の売れ行きをみても、ベストセラーという言葉に多くの人々が反応し、それが気になる人が大量に発生し、その本に人々が殺到する。売れているものは、「売れている」ということのためにますます売れ、それ以外のものはますます売れなくなる。こうして、売れるものばかりが売れ続けるという一極集中が起こってくる。

このような一極集中も、一種の過剰反応といえる。情報に踊らされ、自分の頭で考え、自分で判断することが出来ない。判断基準はただひとつ。「みんなが買っている」ということに他ならない。

商品の売れ行きだけでなく、価値観にも似たような傾向がみられる。「売れている」から「売れる」というのと同様に、^②「みんながそう言う」から「そう思う」ようになる。

元々私たち日本人は、世間を気にして、「みんな」を基準に、クラシてきたわけだが、^③そうした日本の心性が、ネット空間の発達によってますます強化されているように思われる。

これではせっかく多様な情報が流通する時代になっても、多様な価値観を認め、多様な価値観が併存する社会になっていかない。

個性の尊重とか価値観の多様化と言われるわりには、過剰反応による一極集中や^{*}ネット炎上^④に象徴されるような一面的なものの見方が横行している。みんながつながることによって、かえって個性が失われつつある。もっと多様な個性と価値観が認められるような社会にしていく必要がある。

情報に踊らされ、自分の頭で考えないことが、さまざまな過剰反応を生んでいる。一面的な情報や極端な意見をそのまま取り入れてしまうところに過剰反応が生じることになる。

過剰反応を防ぐには、自分の頭でしっかり考える必要がある。そのためには、一面的な情報をそのまま信じるのではなく、多面的に物事をみることが不可欠だ。多様な意見を参考にし、さまざま

な視点から物事をみようとする習慣の欠如が過剰反応を生む。

近頃、^④単細胞な過剰反応が目立つということは、物事の一面しか見ないで反応する人が多いことを意味している。エ、過剰反応社会を変えていくには、物事を多面的にみる習慣を人々の間に広めていくのが効果的だ。

^⑤説得のテクニクに一面提示と両面提示というのがある。一面提示とは、たとえば勧めたい商品の長所ばかりを並べたり、提案を採用した場合のメリットばかりを提示したりする手法である。両面提示とは、勧めたい商品の長所と短所を並べつつ利点を強調したり、提案を採用した場合のメリットやデメリットを示した上で最終的なメリットを強調したりする手法である。

知的好奇心が乏しく、自分の頭でじっくり考える習慣のない人に対しては、単純明快な一面提示が効果的である。こういうメリットもあるけど、こんなリスクももちろんあるなどと言うと、

「採用しろって言うのか、とくに売り込むつもりはないのか、いったいどっちなんだ！」と見当違いの怒りを示すことがある。さまざまな観点から良心的に丁寧に説明しようとする、

「そんな理屈っぽいことはいいいから、要するにどうすればいいのかを教えてくれ」
などと苛つきながら、単純明快な説明を促してくる。

一方、知的好奇心が強く、自分の頭でじっくり考えないと気がすまないタイプの人に対しては、両面提示が効果的といえる。メリットばかりを強調する説明や単純すぎる説明に対しては、ウタガワシさを感じたり、押しつけがましく感じたりするため、心理的抵抗が生じる。そのようなタイプには、商品や提案の長所だけでなく短所も示したり、他社の商品や提案の長短を比較。ケントウしたり、背景となる事情を解説するなど、多面的な情報を用いて説明しないと納得してもらえない。

^⑥過剰反応社会と言いたくなるほど過剰反応が目立つということは、物事を多面的に見ようとせず単純明快な意見に引きずられる人が多いことを意味する。ゆえに、メディアも教育機関も、多面的な情報提示をしていく必要があるし、多面的に物事をみる習慣を広めていく必要がある。

(榎本博明『「過剰反応」社会の悪夢』より)

※自己効力感……行動を起こす前に、自分ならやればできると思う気持ち。

※ネット炎上……インターネット上の失言などに対して、非難や批判が殺到する状態。

問7 — 線⑤「説得のテクニクに一面提示と両面提示というのがある」とありますが、「両面提示」について述べたものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 押しつけがましさを相手に与えないよう注意して、要領を得た簡潔な説明を提示する。
- 2 最終的な判断を相手に一任するため、商品の長所と短所を平等に並べた説明を提示する。
- 3 知的好奇心の強い人に対して、自社の商品の長所を理路整然と強調する説明を提示する。
- 4 自分で熟考したい人に対して、比較の材料となる多面的な情報を用いた説明を提示する。

問8 — 線⑥「過剰反応社会と言いたくなるほど過剰反応が目立つ」とありますが、これについて次の各問いに答えなさい。

I 現在の社会を「過剰反応社会」ととらえて問題点を示している筆者は、どのような社会を実現したいと考えていますか。文中から二十三字の表現を二つぬき出し、それぞれのはじめとおわりの五字で答えなさい。

II 私たちが「過剰反応」をしないために、どのようなことが必要だと筆者は述べていますか。「物事」「頭」ということばを使って、三十文字以内で答えなさい。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

新年を迎えた中学二年生の井嶋杏里は、三人の仲良しの同級生と初詣に行き、みんなが高校進学に向けて、別々の志望校を考えていることを知る。仲の良い友達と一年後には進路が分かれることにシヨックを受けた杏里が、隣を歩く市居一真に「みんな離れ離れになっちゃうよね」と言った後の場面である。

忘れられたくない。

強い感情に揺さぶられ、杏里は指を握りしめた。

あたし、美穂ちゃんに忘れられたくない。前畑くんにも忘れてほしくない。そして、そして……。横にいる一真を見上げる。

市居くんに覚えていてもらいたい。いつまでも、あたしのことを覚えていてもらいたい。

背中が汗ばんでくる。

とくん、とくん。

とくん、とくん。

心臓の鼓動がわかる。いつもよりずっと速く、強く、打っている。息苦しいほどだ。

とくん、とくん。

とくん、とくん。

「そうかなあ。違うと思うけど」

一真が首を傾げる。視線が **ア** 空を仰いだ。

「違うって？」

つられて、杏里も上を向く。少し雲が出て来た。さつきまで青く晴れ上がっていた空に、 **イ**

丸い雲が動いている。春の雲だ。

「違うって、何が？」

ゆるやかな雲を目で追いながら、繰り返して尋ねてみる。一真の答えが聞きたかった。

「おれたち一年後には、それぞれ進学して別々の高校に行く。それはまあ……。そうかもしれないけどさ、それで離れ離れになるってのは、違うと思う」

「だって……」

「会えばいいだろ」

一真はそう言った。ごく普通の口調だった。いつもと変わらない言い方だった。とても短い一言だった。でも、普段の会話の何倍も鮮やかに杏里の耳に響いてきた。

② 「会えば……いいの」

一真の一言を繰り返す。心臓の鼓動はまだおさまらない。とくん、とくと鳴っている。そうだと一真がうなずいた。

「今みたいに、毎日、顔を合わせることはできなくなるけど。でも、会いたいと思えば会えるだろう。想いさえあれば、そんなに難しいことじゃないはずだ。むしろ、おれ、^③楽しみなんだ」
「楽しみ？」

「うん。今みたいにしょっちゅう会って、しゃべって、それはそれで楽しいんだけど……あつ、おれ、楽しいんだ。その、みんなといっしょにいるの楽しくて、そんな時間が好きなんだけど」
照れ隠しなのか、一真は乱暴な仕事で肩を^{かた}竦めた。頬が少し赤らんでいる。

「あたしも楽しいよ。すごく好き。大好きって言ってもいいかも。だから……^④淋しくなったのかも。あと一年ちよつとで離れ離れになっちゃうって考えたら、淋しくなったのかも……」

それだけではなかった。一真も美穂も久邦も、それぞれの道を見つめ踏み出そうとしている。杏里だけが見つめる道をつかんでいない。そう思えてならなかった。「絵をやりたい。いつか、自分で納得の^{なっぞく}作品を描き上げたい」「栄養士の資格を取りたいの」「日本一のランナーになる」そう語る一真が、美穂が、久邦が眩しかった。

あたしだけが置いて行かれる。
取り残されそうな焦りもまた、胸にすくっているのだ。でも、そこまでは、一真にも告げられなかった。

夢とか目標とか、自分の未来を指し示すものは、自分で探し当てるしかない。他人から与えられるものではないのだ。親であっても、教師であっても、たいせつな仲間であっても、他人の夢は他人のもの。他人の夢に乗っかって生きることができない。

一真が教えてくれた。

※ 父親に^{あちが}抗い、自分の想いを貫いて、一真は今、ここにいる。そういう人間だけが、本気で自分の夢を語れるのではないか。

「ちよつとの間、離れ離れになって、また、会う。そのとき、みんながどう変わっているか、すげえ楽しみだな、なんて、思うわけ」

一真がもう一度、肩を竦めた。

「それに、おれたち、だいじょうぶなんじゃないかなとも思う」

「だいじょうぶって？」

「たとえ、会えなくなつて……一年、二年、いや十年も二十年も会えなかつたとしても、忘れたりしないさ」

「市居くん、そう思うの？」

一真が立ち止まる。杏里も足を止めた。新春の光が一真の顔を照らしている。いつもより、瞳^{ひとみ}が黒くかげつて見えた。

「おれは忘れないし……違う高校にいったとしても、井嶋に連絡すると思う。会わないかって……」

「市居くん……」

「井嶋、これ、まだ誰にも話してないけどな」

一真の声が心なしか低くなった。

「おれ、美稜学園の芸術科を目指すつもりなんだ」

思わず⑤ いた。

美稜学園の名前は聞いたことがある。音楽、絵画、造形など芸術分野にたくさんの人材を輩[※]出してきた私立の名門校だ。たいへんな難関校でもあった。なにより、[※]芦藁の街からはるか遠方の、海辺近くの都市にある高校だ。

全国から学生が集まるため、全寮制になっていると聞いたこともある。芦藁からだど、電車と新幹線を乗り継いで半日以上も彼方^{かなた}の高校だった。

「……遠くに行くんだね」

「うん。もちろん、受からなきゃ話になんないけど。美稜でみつちり、描くつてことがどういこうとか、おれなりに探してみたいなんて思っちまったから。あはっ、ちよつとカッコウつけ過ぎか」

ウ 表情を崩すように笑った後、一真は、

「どんなに遠くにいつても、おれ、井嶋に会いに帰って来る。[※]モデルになつてくれとかそんなじゃなくて……きつと会いたくてたまらなくなるから、そうしたら、一日でも半日でも、井嶋に会いに帰って来る。絶対だ」

「市居くん……」

「あはっ、こんな話、ちよつと早過ぎるか。まるで、卒業間近みたいな雰^{ふん}囲^い気^きになつちやったよな。まだ、後一年、おれたち芦藁第一中学生なんだよな。なんか、おれ、勝手なことしゃべっちゃって……。けど、いつか、井嶋に伝えたかったんだ。うん、^⑥ちゃんと伝えたかったんだ。まっ、正月だし、いいタイミングだったかもな」

次の交差点に着いた。ここで、一真とは別れる。

「家まで送るよ」

「いいの。一人で歩きたいから」

杏里は一真に背を向け、歩き出す。吹^ふいてくる風が冷たい。

とくん、とくん。

とくん、とくん。

鼓動が伝わる。聞こえる。一真の声と重なる。

あの風景が見たいな。

エ 思った。

⑦ グラウンドの風景だ。一年四組の窓から眺^{なが}める風景を見たい。

風の中を杏里は一人、歩き続けた。

(あさのあつこ『一年四組の窓から』より)

※父親に抗い、自分の想いを貫いて……自分の会社を一代で築いた父は、一真が絵の道に進むことに猛反対していたが、真剣な一真を見るうちに許すようになった。

※輩出……すぐれた人材を世に送り出すこと。

※芦藁の街……杏里たちが住む街。四方を山に囲まれた内陸部にあり、緑の多いのどかな街。

※モデルになってくれ……杏里は一真に頼まれ、一年生の三学期から肖像画のモデルをしていた。

問1 空らん ア エ に入ることばの組み合わせとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---------|----------|----------|---------|
| 1 | ア きりつと | イ ささつと | ウ ぐちゃつと | エ ちよつと |
| 2 | ア さつと | イ ふつと | ウ うつすらと | エ ふいと |
| 3 | ア ふわつと | イ ふかふかと | ウ にこにこと | エ ぱつと |
| 4 | ア すつと | イ ほんわりと | ウ くしゃりと | エ ふつと |

問2 ——線①「息苦しいほどだ」とありますが、杏里はどのようなことを恐れて「息苦しいほど」になっているのですか。次の文の空らん【 】にあてはまることばを、文中の言葉を使って五字で答えなさい。

仲良しの同級生に【 】しまうこと。

問3 ——線②「会えば……いいの」とありますが、このとき杏里はどのような様子でいますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 一真の言葉を大胆に感じて驚きながらも、二人で会話していることに満足している様子。
- 2 一真の言葉を意外に感じて戸惑いながらも、この言葉の先を聞きたいと期待している様子。
- 3 一真の言葉を冷淡に感じて残念に思いながらも、努めて明るく振る舞おうとしている様子。
- 4 一真の言葉を深刻に感じて途方に暮れながらも、平静を装って落ち着こうとしている様子。

問4 — 線③「楽しみなんだ」とありますが、一真は何を「楽しみ」にしているのですか。本文の内容にあうように十五字以内で答えなさい。

問5 — 線④「淋しくなったのかも」とありますが、このとき、杏里は「淋しさ」のほかに、もう一つどのような気持ちを感じていますか。文中から十字以内でぬき出しなさい。

問6 空らん ⑤ に入ることばとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。
1 息を殺して 2 つむじを曲げて 3 目を見張って 4 耳をすまして

問7 — 線⑥「ちゃんと伝えたかったんだ」とありますが、一真は杏里にどのようなことを「伝えたかった」のですか。次の文の空らん【A】【B】にあてはまることばを、文中から【A】は八字、【B】は四字でぬき出してそれぞれ答えなさい。

自分と杏里が【A】としても、決して気持ちは【B】にならないこと。

問8 — 線⑦「風の中を杏里は一人、歩き続けた」とありますが、杏里はどのような決意で「歩き続け」ていると考えられますか。次の文の空らん【A】【B】にあてはまることばを、文中から【A】は一字、【B】は十字以内でぬき出してそれぞれ答えなさい。

自分の【A】を【B】のだという決意。

問9 この文章の表現の特徴として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 色彩感豊かな情景描写と会話文で多用されている擬態語が、主人公の素直な心の美しさを印象的に表している。
- 2 生き生きとしたやりとりを示す会話文と体内で響く擬音語が、主人公の心情の変化を効果的に表している。
- 3 ことばに詰まる部分が多い会話文と簡潔で力強い描写が、登場人物の複雑な関係を直接的に表している。
- 4 柔らかく比喩の多い情景描写と倒置や省略の多い会話文が、登場人物の結びつきの深さを幻想的に表している。

3 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

未知へ

木村 信子

わたしが響ひびいている

透明とうめいな殻からの中で響ひびいている

ありつたけ響ひびいている

外とちはもうすぐ春らしい

わたしが響ひびいている

痛いほど響ひびいている

あふれるほど響ひびいている

もうすぐわたしは割れるのだ

わたしが響ひびいている

おもてへこだまして響ひびいている

まだ見たこともない山へ胸をときめかせて

わたしが響ひびいている

(『中学生に贈りたい心の詩40』より)

問1 この詩の文体・形式を次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 文語定型詩 2 口語定型詩

3 文語自由詩 4 口語自由詩

問2 この詩は三つに分かれています。この一つ一つを何といいますか。漢字一字で答えなさい。

問3 この詩で用いられている表現技法を次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 体言止め 2 反復法

3 擬音語 4 省略法

問4 この詩は「未知へ」という題名ですが、「わたし」にとって、「おもて」の世界の「未知」なるものは、何と表されていますか。詩の中から一語でぬき出しなさい。

問5 この詩について説明した次の文章の空らん「A」「B」「C」に入ることを、詩全体の中からぬき出しなさい。ただし、「A」「B」は五字以内、「C」は十字以内とします。

この詩では、「A」ということばによって、成長への意志の高まりを表現している。作者が自分を成長させてくれる「B」なものとのお会いに「C」いるさまをえがいた力強い作品である。

4 次の①～⑤について、後の問いに答えなさい。

- ① 「^a」に汗をにぎる………(危なっかしい場面などで、はらはらする。)
- ② 後ろ「」をさされる………(かげでみんなから悪口を言われる。)
- ③ 白羽の「」が立つ………(大勢の中から特に見込まれて選ばれる。)
- ④ 「」で鼻をくくる………(無愛想^bに対応する。)
- ⑤ 「」のうちどころがない…(完璧^cで少しの欠点^cもない。)

問1 ①～⑤の内容に合うように「」に入ることばとしてふさわしいものを考えて、それぞれ漢字一字で答えなさい。

問2 —線 a 「後」について、部首名をひらがなで答えなさい。

問3 —線 b 「無愛想」の「無」と同じように「無」を読む三字熟語を次から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1 無遠慮 ^{えんりよ} | 2 無理解 |
| 3 無表情 | 4 無意識 |

問4 —線 c 「欠点」と反対の意味を表す熟語になるように、次の□に入る漢字一字を書きなさい。

欠点 ← □ 点